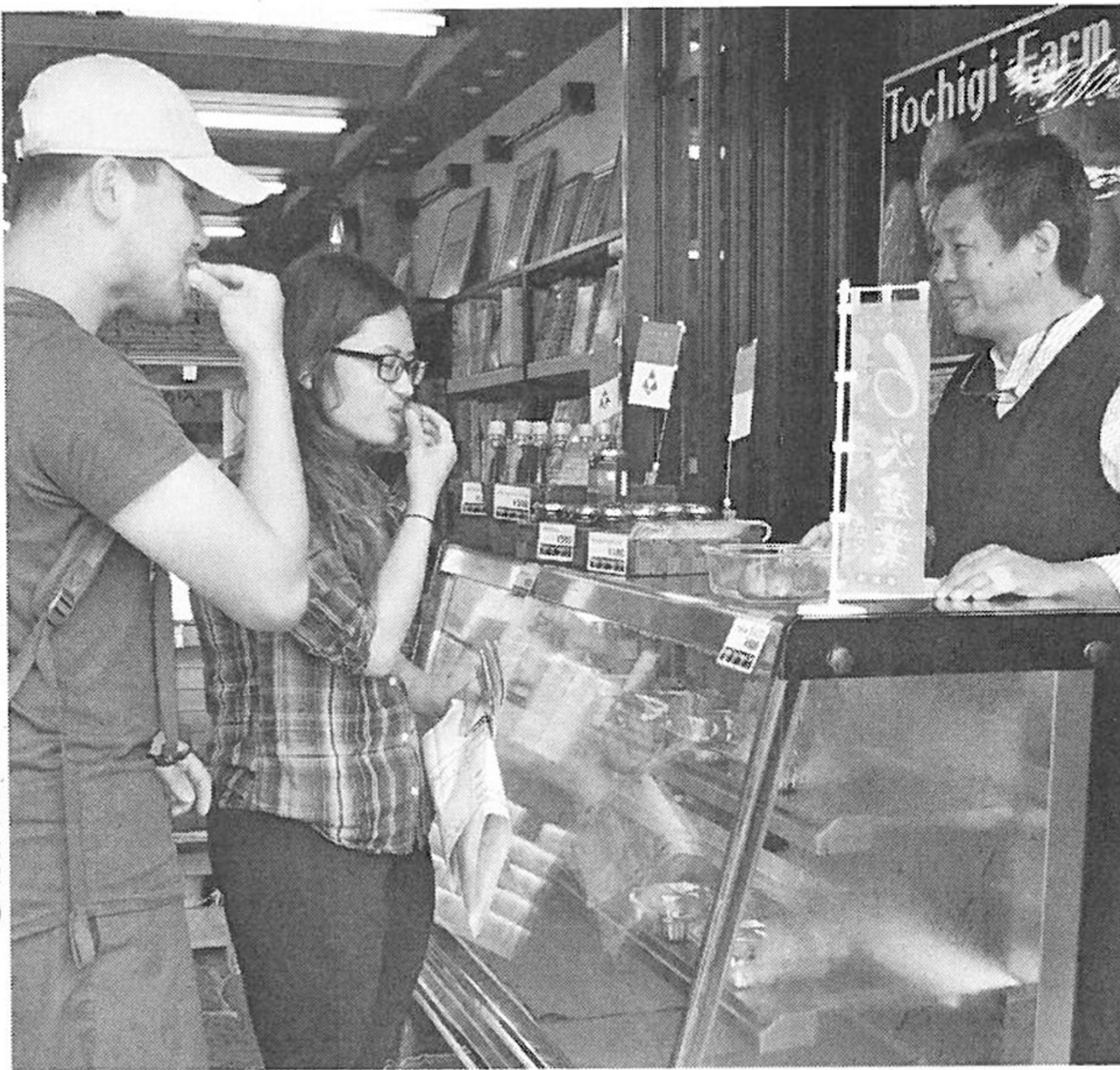


イチゴ、6次化品 訪日客に

栃木県産「とちおとめ」を試食する外国人観光客⑤



栃木県は、県産イチゴや6次産業化商品を国際的にアピールするため、東武日光駅前に特設ブースを設けた。来年3月28日まで開設して試験販売を行い、アンケートなどで効果を探る。

東武日光駅前にブース

栃木県 試験的に販売

「おいしい」評判は上々

特設ブースは、同駅前の「Tochigi Farm Products Store」。

「re」。物産店「東光物産」の店舗軒先を活用し、パック詰めされたイチゴ「とちおとめ」「スカイベリー」を展示即売する。イチゴのジャムやジュース、プリン、ドライフルーツなどの加工品や、イチゴ以外の6次産業化商品も並ぶ。宇都宮市の㈱ファーマーズ・は上々。「約7割が外国の人。試食を勧めると、多くの人に買ってもらう」と、ブースの担当者は手応えを語る。米国から来たという若いカップルは、「とちおとめ」を一口頬張ると「おいしい」と絶賛。早速、買い求めている。

「とちおとめ」「スカイベリー」は、シーズン終了が近づいているため、下旬からは、夏秋イチゴ「なつおとめ」を販売する予定。6次産業化商品は通年販売する。今後、外国語対応のカタログや、映像コンテンツを制作するなどし

た外国人が目立つ。1日のオープン以来、たくさん観光客が立ち寄り評判

フォレストが運営する。日光は、外国人観光客の増加が目覚ましい。市内周遊のバスの発着所である同駅前は、リュックサックを背負った外国人が目立つ。

「とちおとめ」「スカイベリー」は、シーズン終了が近づいているため、下旬からは、夏秋イチゴ「なつおとめ」を販売する予定。6次産業化商品は通年販売する。今後、外国語対応のカタログや、映像コンテンツを制作するなどし

「とちおとめ」「スカイベリー」は、シーズン終了が近づいているため、下旬からは、夏秋イチゴ「なつおとめ」を販売する予定。6次産業化商品は通年販売する。今後、外国語対応のカタログや、映像コンテンツを制作するなどし